

報 告

出産体験に関して母親が伝えた内容と
子供が受けとめた内容の相違に関する検討羽 山 美 和¹ 柘 植 静 花¹ 室 津 史 子¹

抄 録

本研究では、看護学科の4年次生と彼らの母親の親子40組を対象に妊娠・出産・育児に関して母親から娘／息子（子供）が聞いた話、また母親が子供へ伝えた話を調査し、子供は母親から何を伝えられているのか、またどのように母親の話を理解しているか分析した。その結果、母親は多くの内容を子供へ語り継いでいた。しかし、母親が子供に伝えた話と子供が母親から伝えられたと認識した話には母親個々の妊娠や分娩の経験の差によるサブカテゴリーの相違がみられた。母親は新たな生命を宿した喜びや出産の肯定的な内容のみではなく、不安や恐怖など否定的な内容も娘に伝えていた。子供には母親になる喜びや命に対する感謝の想いは伝わりにくい。母親の想いが子供に伝わるために、看護職者として日常的に母親と子供の関係性が深められるような繋がりやコミュニケーションの場を積極的に多く作り、小さな命を抱く喜びや感動・感謝という子供の心に響くように妊娠、分娩の肯定的な内容を伝える必要がある。

Key words: 妊娠, 出産, 育児, 伝承, 母・子

1. はじめに

我が国の2015年合計特殊出生率は1.46で前年を0.04ポイント上回って2年ぶりに上昇した。2005年の1.26以降緩やかな回復傾向にあるが、少子化や核家族化は進み深刻さを増している¹⁾。また、女性の高学歴化にともなう晩婚化、出産年齢の高齢化、家族形態の変化による育児経験の不足など、妊娠、出産、育児に関する環境も変化している。妊婦健康診査に対する補助や保育所の増設など、少子化対策は国の大きな課題である。

こうした変化の中で子供を産み育てる青年たち

は、妊娠、出産、育児についてどのような考えを持っているのだろうか。彼らの妊娠、出産、育児に対する捉え方を知ることは、妊娠、出産、育児をする対象者と関わる看護職として大切なことである。妊娠する喜び、子供を産む意義、子育てをしていく中での母親としての喜びなど、妊娠、出産、育児をプラスのイメージとして捉えることが重要であり²⁾、少子化対策の一助と考える。

さて、若い世代が情報を得る方法として、今やインターネットは代表的な情報源の一つであり、情報を手近かつ簡単に入手できる状況にある。妊娠・出産、育児に関する情報は、行政、メディア、医療機関から多く提供されており、彼らが得る情報量は多い。しかし、それら多くは個々に応じた内容とは限らない。2015年の合計特殊出生率は1.46と上昇

受稿：2016年12月27日 受理：2017年4月25日

¹ 広島都市学園大学健康科学部看護学科
広島市南区宇品西5丁目13-18

しているとはいえ、核家族化の中、育児を身近で経験する機会は少なく、次世代の親となる青年たちが妊娠、出産、育児に対して自己の経験を応用できる対応力や技術を十分に備えられる環境にあるとはいえない。他者の経験値を自身の妊娠、出産、育児に役立てる情報として、母親から娘へ語り継がれることばは、より身近で具体的な内容として役立てられている。これまでの報告には、妊婦へのストレスに対するアプローチの在り方^{3) 4)}や出産後の母親に対する実母の関わりの必要性について報告されている^{5) - 9)}。しかし、妊娠経験のない青年に対する母親の関わりを示す論文は少ない。山地¹⁰⁾や竹原ら¹¹⁾のように、母親は月経について伝承してはいるものの、処置方法のみで、月経の持つ意味や月経を肯定的に捉えられるような内容や性と生殖に関する内容は詳しく伝承されていないと報告している。そこで、本研究では妊娠前の青年たちが母親から、妊娠、出産、育児に関して母親から聞いたこと、また母親が子供へ伝えたことを明らかにしたいと考えた。

2. 目 的

今回、妊娠前の青年たちが彼らの母親から伝えられている知識や技術に着目した。その中でも、妊娠や出産について学ぶ機会のある看護学生を子供世代として対象にした。

どのような支援が望まれるのかについて示唆を得るために、妊娠、出産、育児に関して母親から聞いたこと、また母親が子供へ伝えたことについて具体的な内容を明らかにし、その相違点について検討した。

3. 方 法

3.1 対象

A 大学看護学科の4年次生の学生106名（以下、子供とする）とその母親106名とし、そのうち最終的に同意が得られた40組の親子（男子学生5名、女子学生35名とその母親）を分析対象とした。

3.2 データ収集方法

期間は平成27年7月～9月までに質問紙の郵送に子供の同意が得られた69名の母親に無記名自記

式質問用紙を郵送した。最初は無記名自記式質問用紙を子供に配布し、記載時間が必要であるため留め置き式にて質問用紙を回収した。また、母親に対する研究協力については、同時に子供へ説明した。子供の同意が得られた母親に対して無記名自記式質問用紙を郵送した。回答用紙には親子のペアを把握するため、予めペア番号を付記した。回収数は子供69名（回収率65.1%）、母親40名（回収率58.0%）であった。

3.3 調査内容

子供に対して、妊娠、出産、育児それぞれに関して母親から伝えられたことは何か、母親に対しては、妊娠、出産、育児それぞれに関して子供へ伝えたことは何かについて自由記載とした。

3.4 分析方法

妊娠、出産、育児それぞれに関して母親が子供に伝えた記述内容、母親から伝えられた記述内容を意味ある文節を抽出し、コード化を行った。次に、コード間における類似性に基づき、サブカテゴリー、カテゴリーへと集約した。分析過程では、共同研究者間で繰り返し検討した。

3.5 倫理的配慮

研究の目的、研究協力の自由、協力の有無により不利益は生じないこと、分析や結果をまとめる際に個人特定はされない形で行うことを、口頭および文章で説明し同意を得た。子供には、自身で質問紙を封筒に入れて閉封後に、回収箱へ投函してもらった。母親への質問紙は、子供の同意が得られた場合のみ、質問紙と返信用封筒を入れた封筒に宛先を子供自身に記載してもらい郵送による回収とした。

4. 結 果

回収数は子供69名（回収率65.1%）、母親40名（回収率58.0%）であった。

記載内容から妊娠、出産、育児について得られた文節総数は417で「妊娠」の言葉が入る文節数は母親65、子供64、「分娩」の言葉が入る文節数は母親83、子供49、「育児」の言葉が入る文節数は母親

104, 子供 52 であった。

母親が子供へ伝えた話と子供が母親から聞いた話に分けて分類した結果、抽出されたカテゴリーは親子間で共通していたがサブカテゴリーは一部異なっていた。以下カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを< >、文節を「 」で示し、母親が子供へ伝えた話は母親世代、子供が母親から聞いた話は子供世代とする。

4.1 妊娠に関する内容

【心身の変化】、【過ごし方】、【胎児への想い】、【辛い経験】、【周囲の人々】、【親の願い】、【辛い経験】の6つのカテゴリーと、それを構成する24のサブカテゴリーが抽出された。これらのカテゴリーとサブカテゴリーはTable 1に示す。

母親世代の【心身の変化】では、「動くのも大変だった」や「出産までずっと腰が痛かった」「イライラし、腹立つことがあった」など<妊娠中のトラブル>や<つわり><体重><動作><眠気><気持ちの変化>など妊娠期に生じたマイナートラブルに関する苦痛の内容が多くみられた。子供世代では「よく吐いた」「体重が増えて医師に叱られた」などから母親世代に共通したカテゴリーは抽出されたが、<動作><眠気>は抽出されなかった。

【過ごし方】では、母親世代は「マタニティ教室に通った」や「体を冷やさないようにした」「大きなお腹を抱えて働くことは大変だった」など<仕事><知識を得る><体調管理>など日常生活行動がみられたが、<食事><腹部の保護>は得られず、子供世代では「食事に気を付けバランスの良い食事を食べた」「出産ぎりぎりまで働いた」などがみられたが、<体調管理>に関しての内容は得られなかった。

【胎児への想い】では、母親世代は「胎動を感じると安心できた」「超音波の写真を見て、とてもかわいと感じた」「とにかく何でも注意した」など<愛おしさ><安心><心配><気を付けること><先人の知恵>などお腹の中の胎児に対する愛着形成や、子供を思う愛情に満ち溢れた気持ちを表した内容が得られ、子供世代でも「お腹にいる自分の子が愛おしくてたまらなかった」「お腹の子に話しかけると良い」など母親世代に共通したサブカテ

グリーがみられたが、<安心><気を付けること>の内容はなかった。

【辛い経験】では、母親世代は「子供ができない間、何気ない一言で傷ついた」「不妊治療をあきらめたころに授かった」など<妊娠の苦労>があり、当時の悲しみを思い出しながら辛かった事として胸に刻まれている内容が見られたが、子供世代では<妊娠の苦労>についての内容はなかった。しかし、「流産の経験」を<悲しい出来事>として抽出した。

【周囲の人々】では、母親世代は「実家が遠くて甘えられなかった」や「夫が事故をした」など<周囲の協力>や<家族の出来事>についての記載があり、協力が得られなかったこと、満足感を得ていないことが伺えたが、子供世代では「親戚中がとても喜んでくれた」など母親世代と共通しない<周りからの祝福>のサブカテゴリーがみられた。

【親の願い】では、母親世代は「避妊方法」「ダイエットはよくない」「しんどい時に寄り添える人を見つけてほしい」など<身体を守る><良い縁>に関する文節を抽出したが、子供世代と一部共通しないサブカテゴリーが抽出された。

4.2 分娩に関する内容

母親が子供へ伝えた話と子供が母親から聞いた話に分けて分類した結果、【お産の経過】、【周囲の反応】、【思い出す情景】、【産みの辛さ】、【生まれたあなた】、【経験からの知恵】、【命の畏敬】、【母となる喜びと感謝】の8つのカテゴリーが抽出された。カテゴリーは母親世代と子供世代は共通していたがサブカテゴリーは一部相違がみられた。これらのカテゴリーとサブカテゴリーはTable 2に示す。

【お産の経過】では、母親世代では「病院で生まれた」「へその緒が巻き付き時間がかかった」、子供世代では「最初は破水だった」など共通したサブカテゴリー<産まれた場所><どんなお産だった>が抽出された。

【周囲の反応】では、母親世代では「家族みんなで喜んだ」「母が背中をさすってくれて安心した」「医師と看護師に励まされて産むことができた」など<家族の喜び><家族のサポート><医療者の助言><父の反応>が抽出されたが、子供世代では

Table 1 妊娠に関する内容の分類

カテゴリー	サブカテゴリー	母親が子供へ伝えた話（母親世代）	子供が母親から聞いた話（子供世代）
心身の変化	妊娠中のトラブル	・体調不良なく過ごした ・出産までずっと腰が痛かった	・蕁麻疹がよく出た ・腰が痛かった
	つわり	・つわりはひどくなかった ・何を食べてもだめな時期があった ・ご飯の炊けるにおいがだめだった	・つわりがしんどくアイスしか食べられなかった ・よく吐いた
	体重	・つわりがすんで食べ過ぎて太った	・体重増加量 ・体重が増えて医師に叱られた
	動作	・動くのも大変だった	
	眠気	・眠気がつよかった	
	気持ちの変化	・イライラし、腹立つことがあった ・気持ちが不安定になることがあった	・不安と同時に親になるという意識が高まった
過ごし方	食事		・食事に気を付けバランスの良い食事を食べた
	仕事	・フルタイムで働いていたが、特別問題なかった ・大きなお腹を抱えて働くことは大変だった	・出産ぎりぎりまで働いた
	知識を得る	・育児雑誌を見ていた ・マタニティ教室に通った	・パパママ学級に参加した
	体調管理	・逆子体操をしていた ・体を冷やさないようにした	
	腹部の保護		・妊娠4カ月ごろから腹帯を巻いた
胎児への思い	愛おしさ	・お腹の表面から触ると手・足が分かった ・超音波の写真を見て、とてもかわいいと感じた	・お腹にいる自分の子が愛おしくてたまらなかった
	安心	・胎動を感じると安心できた	
	心配	・健診時、胎児の心臓に関して指摘を受け、心配でたまらなかった	・2回流産したので今回もダメか心配した
	気を付けること	・カフェインや刺激の多いものを摂取しない ・とにかく何でも注意した	
	先人の知恵	・お腹が前に出ると男の子かもしれない ・お腹の子に話しかけると良い	・海藻類を食べすぎない ・お腹が前に出ると男の子かもしれない ・音楽を聞かせると良い ・お腹の子に話しかけると良い
辛い経験	妊娠の苦労	・子供が出来ない間、何気ない一言で傷ついた ・不妊治療をあきらめたころに授かった	
	悲しい出来事		・流産の経験
周囲の人々	周りからの祝福		・親戚中がとても喜んでくれた
	名前の由来		・母方の祖母によって名前がついた
	周囲の協力	・実家が遠くて甘えられなかった	・健康に生まれる事を願い祖父がトイレ掃除をした
	家族の出来事	・祖母の生まれ変わりのように感じた ・夫が事故をした	
親の願い	身体を守る	・避妊方法 ・健康な体は食べ物によってつくられる ・ダイエットはよくない	・避妊方法 ・妊娠したらたばこ・飲酒はやめなさい
	良い縁	・しんどい時に寄り添える人を見つけてほしい	

Table 2 出産に関する内容の分類

カテゴリー	サブカテゴリー	母親が子供へ伝えた話（母親世代）	子供が母親から聞いた話（子供世代）
お産の経過	生まれた場所	・ 病院で生まれた	・ 病院で生まれた
	どんなお産だった	・ 子宮口が開かず24時間苦しんだ ・ 微弱陣痛だった ・ へその緒が巻き付き時間がかかった	・ 予定日より遅れた ・ 夜中に産んだ ・ 最初は破水だった
周囲の反応	家族の喜び	・ 家族みんなで喜んだ	・ 祖父祖母みんなが喜んでかけつけた
	家族のサポート	・ 母が背中をさすってくれて安心した	・ 父が立ち合いをした ・ 誰もおらず一人でタクシーで病院へ行った
	医療者の助言	・ 医師と看護師に励まされて産むことができた ・ いきみが足りないと助産師に叱られた	
	父の反応	・ 特に父親が喜んでいた	・ 父が喜んだ
思い出す情景	思い出の日	・ すごく寒い日だった	・ いい天気だった
	目に浮かぶ景色	・ 桜が満開だった ・ 雪景色だった	
産みの辛さ	痛み	・ 本当に痛かった ・ 苦しくて吐き、腰は割れるように痛かった	・ 医療者に憎しみを感じるくらい痛かった ・ 途中で死ぬかと思うほどだった
	頑張り	・ 声を張り上げた ・ 夜通し陣痛に耐えた	
	不安	・ 不安だった	・ 思い通りにいかなかった
生まれたあなた	子供の様子	・ 頭の形がおにぎりみたい ・ 産まれた直後はお父さんに似ていた ・ 体重が減ったため保育器に入った	・ 元気だった ・ 生まれてすぐには泣かなかった ・ 髪の毛はふさふさだった ・ 未熟児で保育器に入っていた
経験からの知恵	教え	・ よく歩くと安産になる ・ 父親の力が必要	・ 最近は無痛分娩や和通分娩がある ・ 出産に必要な物
	してあげたい事	・ 出産時にはそばについてやりたい	・ 出産には付き添いたい
命の畏敬	命の尊さ	・ 命の誕生のすばらしさ ・ 命を懸けるもの	・ 子供の顔を見たら、痛さ、辛さを忘れる ・ 産んだ瞬間からもう一人ほしいと思った ・ お産は死と隣り合わせ
母となる喜びと感謝	感謝	・ 産まれてきてくれてありがとう	
	喜び	・ 今までで一番の喜びだった ・ 本当にうれしかった	

<医療者の助言>は抽出されなかった。

【思い出す情景】には、母親世代では「すごく寒い日だった」「桜が満開だった」など<思い出の日><目に浮かぶ景色>が抽出されたが、子供世代では<目に浮かぶ景色>は抽出されなかった。

【産みの辛さ】には、母親世代では「本当に痛かった」「声を張り上げた」「不安だった」などから、<痛み><頑張り><不安>が抽出され、子供世代では「途中で死ぬかと思うほどだった」「思い通りに

いかなかった」など<痛み><不安>が抽出された。

【生まれたあなた】には、母親世代では「産まれた直後はお父さんに似ていた」「体重が減ったため保育器に入った」から、<子供の様子>が抽出され、子供世代にも共通したサブカテゴリーが抽出された。

【経験からの知恵】には、母親世代では「よく歩くと安産になる」「出産時にはそばについてやりたい」から、<教え><してあげたい事>が抽出され、

子供世代にも「出産には付き添いたい」と母親の想いと共通していた。

【命の畏敬】には、母親世代では「命の誕生のすばらしさ」「命を懸けるもの」から＜命の尊さ＞が抽出され、子供世代では「子供の顔を見たら、痛さ、辛さを忘れる」「お産は死と隣り合わせ」と共通していた。

【母となる喜びと感謝】には、母親世代では「産まれてきてくれてありがとう」「本当にうれしかった」から、＜感謝＞＜喜び＞が抽出されたが子供世

代では全く抽出されなかった。

4.3 育児に関する内容

母親が子供へ伝えた話と子供が母親から聞いた話に分けて分類した結果、【子供の様子】、【周囲の人の助け】、【育児の工夫】、【母の想い】、【我が子への望み】の5つのカテゴリーが抽出された。カテゴリーは共通していたがサブカテゴリーが一部異なった。これらのカテゴリーとサブカテゴリーは Table 3 に示す。

Table 3 育児に関する内容の分類

カテゴリー	サブカテゴリー	母親が子供へ伝えた話（母親世代）	子供が母親から聞いた話（子供世代）
子供の様子	エピソード	<ul style="list-style-type: none"> ・夜中に喘息の発作があり病院に連れて行った ・迷子になっても泣かなかった ・外出した際によく声をかけてもらった 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく泣き、泣き止まずのに大変だった ・立つのは早かった
	好きな物	<ul style="list-style-type: none"> ・本が大好きでよく読んでやった ・なんにでも興味津々に首を突っ込んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな遊びが好きだったか
	普段の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・親がそばにいれば安心して勉強してくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく寝たので手がかからなかった
	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食が細く、食べるもの遅かった ・母乳も良く飲み、よく食べた ・母乳を吸う力が弱かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し乳を飲んで寝てたけど、またすぐに欲しがった
周囲の人の助け	周囲の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・実家の近所の人が可愛がってくれた ・男性が育児に関わり、たばこをやめてくれる人もいた 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務先の託児所や保育所に預けていた ・親に頼らず一人で育てた ・みんな忙しかった
	家族のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・父親、家族の助け ・父母、祖父母が分担してくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母が手伝ってくれた ・父がお風呂に良く入れてくれた
育児の工夫	子供を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・泣いたら抱っこし、スキンシップを多くした ・無理強いはいはしないと決めた ・一人っ子と思われないように育てた ・兄をたて下の子を可愛がるよう褒めて育てた ・感情的に決め付けた言い方をしない ・子供と一緒に乗り越えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食をしっかり作った ・絵本を読んであげた
母の想い	喜び	<ul style="list-style-type: none"> ・傍にいてくれることが喜び ・健康に育ってくれたことが嬉しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ては楽しい ・忍耐力と集中力がある子に育ち嬉しい
	感謝	<ul style="list-style-type: none"> ・産まれてきてくれてありがとう ・生きがいのようになったし、幸せをもらった 	
	苦勞	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも不安でいっぱいだった ・全力で出来ることは何でもした ・離乳食がすすまず悩みだった 	
我が子への望み	期待	<ul style="list-style-type: none"> ・人を傷つけない、自分が嫌なことは人にしない ・命を大切にすること ・自由に育ってほしい ・自分の事は自分でできるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を粗末にすることは許さない ・人を傷つけない ・勉強より大切なものがあることを知る ・将来出産時には傍にいたい

【子供の様子】では、母親世代では「夜中に喘息の発作があり病院に連れて行った」「本が大好きでよく読んでやった」「食が細く、食べるのも遅かった」から、＜エピソード＞＜好きな物＞＜普段の生活＞＜健康＞が得られ、子供世代では「よく泣き、泣き止まずのに大変だった」「少し乳を飲んで寝てたけど、またすぐに欲しがった」など母親世代と共通したサブカテゴリーが得られた。

【周囲の人の助け】には、母親世代では「実家の近所の人が可愛がってくれた」「父母、祖父母が分担してくれた」などから＜周囲の環境＞＜家族のサポート＞が得られ、子供世代では「勤務先の託児所や保育所に預けていた」「祖父母が手伝ってくれた」などサブカテゴリーも共通していた。

【育児の工夫】には、母親世代では「泣いたら抱っこし、スキンシップを多くした」「子供と一緒に乗り越えていく」から、＜子供を守る＞とし、子供世代では「離乳食をしっかり作った」「絵本を読んであげた」などサブカテゴリーも共通していた。

【母の想い】には、母親世代では「傍にいてくれることが喜び」「健康に育ってくれたことが嬉しい」「産まれてきてくれてありがとう」「いつも不安でいっぱいだった」などから＜喜び＞＜感謝＞＜苦労＞とし、子供世代では「子育ては楽しい」と＜喜び＞はあったが、子供に対する＜感謝＞＜苦労＞は得られなかった。

【我が子への望み】には、「命を大切にすること」「自由に育ってほしい」から＜期待＞が得られ、子供世代では「命を粗末にすることは許さない」「人を傷つけない」などから共通したサブカテゴリーが得られた。

5. 考 察

出産体験に関して母親が伝えた内容と子供が受けとめた内容の相違について比較検討した。

妊娠、出産、育児に関して母親が子供へ伝えた話と子供が母親から伝えられた話のカテゴリーは一部相違がみられたが多くは共通しており、妊娠、出産、育児に関する若者の情報源として母親から子供への語りは有用であると考ええる。

母親世代と子供世代のサブカテゴリーの一部相違

は、母親個々の妊娠や分娩の経験の差によるのではないかと推測した。妊娠、出産の機序は共通する身体の変化であるが、妊娠に至る思いや経緯、受容過程や意味づけ、家族の反応などは様々であり非常に個人的な経験である。同じような事象であっても年齢や育った環境や価値観によって捉え方は異なる。したがって、支援方法としては親から子供に通用させることが可能な内容であると考え、実際の看護場面では個々の対象者に合わせた個人的な経験に対する支援の必要性があると考ええる。

子供世代は未だ大学生であるため妊娠や出産が現実的ではないことから、母親から話を聞いたことがあっても具体的な言葉として想起されていないと考えられる。特に出産や育児については、聞いた話を実践する機会に出会えていない時期の対象者であることもサブカテゴリーの違いの要因と考える。

妊娠に関する話では、【心身の変化】において妊娠に伴う身体の変化は看護を学ぶ学生であるため知識はあるが、＜つわり＞＜動作＞＜眠気＞等、実際に経験していないことに関して理解することは難しい。また【過ごし方】として、母親がどのように妊娠に伴う知識を得て、どのように過ごしたのかは、自分自身の体験とならない時期の子供には重要視され難い内容と思われる。したがって、【胎児への想い】に示される母親の子供を大切に想う気持ちが子供には喜びの感情として記憶に残る。また【辛い経験】を子供がイメージすることは、妊娠が現実的ではないため難しい。【周囲の人々】では＜周りからの祝福＞により、母親が妊娠を肯定的に受け止めていたことから、子供の心にも残ると思われる。自分自身が大切な存在として感じられることにより、他者も大切に考えることができる。大切な命を繋ぐ妊娠、出産、育児という作業において、お腹の中の胎児（子供）に対する愛着形成の過程を言葉として子供に伝えることは、とても重要なことであると考ええる。

出産に関する話では、子供は妊娠経過よりも関心を示し、心に残っていることが分かる。【お産の経過】、【周囲の反応】、【思い出す情景】は子供の心に記憶されるが、【産みの辛さ】は、母親の＜痛み＞や＜不安＞そのものが心に残り、否定的な内容が根強く残っていることが分かる。母親が子供に妊娠、

出産に関する内容を伝えるという行為は「無事に産まれてきてほしい」「幸せになってほしい」という母親が子供に対して抱く愛情によるものと推察される。植木ら²⁾の、大学女子学生と妊婦の分娩に対するイメージでは、学生の多くが否定的に捉えていたが、妊婦は肯定的に捉える事が出来ていた。また、妊娠準備期の女性にとっては、分娩に関する情報が少なく、母性の発達に結びつくような自己の間接的体験で分娩のイメージがつくられると報告している。また、竹原ら¹¹⁾は女子大生における性と生殖に関する伝承は精神的な強い結びつきが強い母娘の方がより積極的に伝承していると報告している。山地ら¹⁰⁾も女子高校生を対象に家庭における性教育は、母娘の関係性が影響すると報告している。今回の結果からは、母娘の関係性を構築する方法の一つとして、妊娠前の子供が母親世代に妊娠、出産の経験を聞くことができる機会を設けること大切であることが分かった。そうすることで、妊娠、出産に関する伝承が家庭の中に機能するのではないかと考えた。及川⁴⁾は初産婦における出産・育児の準備において、妊婦の相談相手は出産子育ての経験者として最も身近な存在の母親としており、実績ら⁸⁾も、実母の出産体験の伝承が妊婦の自律性の育成を培い、母性意識の形成をより促すと述べていることから、母親の存在は妊婦にとって重要であると考えた。

本研究において、【母となる喜びと感謝】という、母親が子供を大切に思う気持ちは子供世代には伝わっていなかった。よって、出産の痛みや辛さだけでなく、喜びや感動・感謝として子供の心に響くよう想いを伝えることが大切と考えた。育児に関する話では、子供世代は母親世代から子供の時の様子を聞くことで自身の幼少期の様子が分かり、子育ての大変さの内容を理解することはできる。しかし、子供の育て方や母親が行った【育児の工夫】や【母の想い】に関する内容を子供が理解することは難しい。

西村ら⁹⁾は母乳育児を通した母親と子供のやり取りは親子関係の維持、再構築の機会ととらえ母乳育児について語り合える場の提供が必要であると報告している。

今回、母娘の関係性を構築する方法の一つとして、

妊娠前の子供世代が母親世代に妊娠、出産、育児の経験を聞くことができる機会を設けること、さらに子供世代が親になる時期すなわち、妊娠や出産、育児が最も現実的になった時期に妊婦のみでなく夫、その母親、家族を対象に講座や教室の開催など、母親世代を超えた者の会話が augmenter するような看護職者の介入が必要であることが明らかになった。

6. 結 論

- 1) 出産体験に関して母親世代が子供に伝えた内容と子供が受け止めた内容の比較検討をした。
- 2) 妊娠に関する内容では、6 カテゴリーに整理され、母親の経験の有無によってサブカテゴリーの違いがみられた。自分（子供）が大切であるという母親の気持ちが子供に伝わることで、子供世代は妊娠という出来事を喜びの感情として心に残すことになると考えられる。
- 3) 出産に関する内容では、8 カテゴリーに整理された。【母となる喜びと感謝】のカテゴリーでは、母親の子供に対する愛しい想いは子供世代には伝わっていなかった。よって、分娩の痛みや辛さだけでなく、小さな命を抱く喜び、感動・感謝として子供の心に響くよう想いを伝えることが重要である。
- 4) 育児に関する内容では、5 カテゴリーに整理された。子育ての大変さを知ることはできるが、まだ育てられている立場の子供世代が、子供の育て方や工夫について理解することは難しい。
- 5) 看護職者には妊娠、出産、育児をする青年（子供）に対して、妊婦となる子供のみでなく妊婦を支える家族が共に語り合えるような場を工夫するなどの看護介入が望まれる。

謝 辞

質問紙調査にご協力頂いた学生および母親の皆様へお礼を申し上げます。

なお利益相反に相当する事項はありません。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省. 人口動態統計確定数 2016.
<http://kireinomaho-mailorder.blogspot.jp/> (2016 年

11月検索)

- 2) 植木かおり, 桑名佳代子. 分娩に対する妊婦と大学生のイメージ－Semantic Differential法を用いて－. 千葉県立衛生短期大学紀要 1995; 14 (2): 27-33.
- 3) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子. 若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対処方略パターンとその変化. 日本保健学会誌 2009; 12 (2): 77-90.
- 4) 及川裕子, 宮田久枝, 新道由記子. 初産婦における出産・育児の準備の実態. 園田学園女子大学論文文集. 2013; 47: 95-104.
- 5) 井関敦子, 白井瑞子. 実母からの授乳・育児支援のなかで娘が体験した思いと, その思いに関係する要因. 母性衛生 2010; 50 (4): 672-679.
- 6) 岡山久代. 初産婦と実母との関係性尺度(Primigravida – Mother Relationship Scale)の開発と信頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌 2011; 31 (1): 3-13.
- 7) 小林由希子. 出産前後の里帰りにおける実母の援助と母子関係・母性性の発達. 日本助産学会誌 2010; 24 (1): 28-39.
- 8) 実積麻美, 大谷愛佳, 山崎愛沙, 山下恵, 和田亜弓, 谷脇文子. 実母からの出産体験の伝承に対する妊婦の意味づけ. 母性衛生 2008; 48 (4): 542-550.
- 9) 西村香織, 永山くに子. 産褥早期の初産婦の母乳育児をめぐる実母の関わりの特徴. 日本助産学会誌 2014; 28 (2): 229-239.
- 10) 山地佳代, 白石裕子, 松浦賢長. 家庭における性教育の可能性に関する研究－女子高校生とその母親との関係および性に関する会話についての質問費調査より－. 母性衛生 2002; 43 (4): 549-554.
- 11) 竹原健二, 嶋根卓也. 都内女子大生における性と生殖に関する伝承と母娘関係の関連. 民族衛生 2007; 73 (2): 60-69.

Differences in spoken and conveyed content about the experience of delivery from mother to child

Miwa HAYAMA¹ Shizuka TSUGE¹ Fumiko MUROTSU¹

Abstract

In this study, we analyzed the content of what the mother told her daughter or son and the story that the child heard from her or his mother about her pregnancy, delivery and infant rearing experience. The subjects were 40 students in the department of nursing in our college and their mothers.

We investigated the differences in recognition between mother and child about the story of pregnancy, delivery and infant rearing that the mother told her child. As a result, although the mothers told many things to their children about their knowledge and feelings during the pregnancy, childbirth and child rearing, there were some differences between the content of what the mother told her child and the content conveyed to the child; this may have been caused by the different experiences of pregnancy and delivery of each mother. All mothers told their children not only the pleasure of having a baby and the positive experience of delivery, but also negative feelings, such as anxiety and fear, about the pregnancy, delivery and infant rearing. However, the pleasure of becoming a mother and the gratitude for creating a life are difficult to convey to a child. These findings suggest that nurses need to create opportunities to develop better communication between a mother and her child, and mothers should try to tell their children about the positive aspects of pregnancy and child rearing in a way that will remain in the child's mind as pleasure and appreciation of having a baby.

Key words: pregnancy, delivery, infant rearing, handing down of experiences, mother and child

¹ Department of Nursing, Faculty of Health Science, Hiroshima Cosmopolitan University
5-13-18 Ujinanishi, Minami-ku, Hiroshima 734-0014, Japan